

日本感染管理ベストプラクティス“SAIZEN”研究会

大分ワーキンググループ 第3回 活動報告

平成30年2月16日(金) 全労災レイユ 7階アイリス

第1回 19施設 43名(病院18施設 42名 介護施設1施設 1名)

第2回 16施設 40名(病院15施設 39名 介護施設1施設 1名)

第3回 14施設 37名(病院14施設 37名)の参加がありました。



第3回目では、作成したベストプラクティスをもとにそれぞれの施設が取り組んできた成果をグループ内で発表しました。仕事で忙しい中での取り組みですが、改善できたところや、難しかったところ、今後の課題などを情報共有できる場となりました。同じ取り組みを頑張ってきた、仲間とのネットワークは大切な財産になるのではないのでしょうか。

また、グループ代表の発表では、様々なテーマの取り組み発表を熱心に聞いている姿が印象的でした。

来年も、参加していただけることを楽しみにしております。是非仲間を増やしていきましょう。

土井先生の「感染管理ベストプラクティスを推進するための“戦略”」では継続していくことの大切さと変革をもたらすことができるのがベストプラクティスであることをお話ししていただきました。今回参加していただいた方々が、作成したベストプラクティスを実践に活かせ、継続して取り組んでいただくことを願っております。

レポート:津久見中央病院 戸田美穂子